

第10回定例岡山県教育委員会議事録

1 日 時 令和7年9月3日（水）
開会15時00分 閉会16時31分

2 場 所 教育委員室

3 出席者 教育長 中村 正芳
委員（教育長職務代理者） 上地 玲子
委員（教育長職務代理者） 服部 俊也
委員 梶谷 俊介
委員 田野 美佐

教育次長 後藤 博幸
教育次長 佐々木 亨
学校教育推進監 室 貴由輝
教育政策課 課長 小林 伸明
副課長 小野 敏靖
総括副参事 滝澤 容彦
高校魅力化推進室 室長 藤原 伸一
文化財課 課長 浜原 浩司
教職員課 課長 荻田 直樹

4 傍聴の状況 0名

5 協議事項

- (1) 岡山県教育関係功労者表彰について
- (2) 令和8年度県立高等学校第1学年生徒募集定員の策定方針について
- (3) 令和7年度岡山県指定重要文化財の指定等の諮問について

6 報告事項

- (1) 不利益処分に関する審査請求に係る方針について

7 その他

8 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。協議事項(1)は、表彰案件であるため、協議事項(3)は、教育行政の公正を確保する必要があるため、報告事項(1)は人事案件であるため、教育委員会会議規則第12条に基づき、非公開とするよう発議する。

委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

この発議は、討論を行わずにその可否を決定することとなっているので、直ちに採決に入る。協議事項(1)協議事項(3)、報告事項(1)は、非公開とすることに賛成の委員は挙手願う。

(委員全員)

挙手

(教育長)

全会一致により、本案件は非公開とすることに決した。

協議事項(2) 令和8年度県立高等学校第1学年生徒募集の策定方針について

- ・高校魅力化推進室長から資料により一括説明

(委員)

毎年同じ策定をしているが、昨年と比べ何か変更があったのか。

(高校魅力化推進室長)

平成31年2月に策定した実施計画に基づいているため、変更点は特になし。

(委員)

昨年も質問したが、今回の募集定員の検討の際に通信制は対象外であるとのことだが、同時に検討してもらうことはできないのか。

(高校魅力化推進室長)

岡山県では県立通信制高校は岡山操山高校のみであり、定員もそもそも大きい。通信

制高校への志願者が増加する中、今後は、全日制高校の定員決定と通信制のニーズを関連付けて検討する必要があると考えており、岡山県高等学校教育研究協議会において、県立高校における通信制のあり方についても議論を進めてもらいたい。

(委員)

何かしらの魅力を感じて私立通信制へ行く生徒が増えていると感じており、通信制の生徒たちのために、情報交換できる場があってもよいのではないかと考える。

(高校魅力化推進室長)

私立広域通信制高校は県内に本校がなくサポート校のみという形態もあるため、実態把握が困難であるが、文部科学省がその実態把握のための仕組み構築を検討していることを踏まえ、文部科学省の動きに注視していく必要があると考えている。

(委員)

高等学校教育研究協議会の開始を踏まえ、10年間の計画に基づく募集定員策定のあり方で今後も成り立つのか、人口減少や教育の多様化を考慮し、定期的に見直ししながら、もう少し柔軟に対応しておいた方がよいのではないかと考える。

(高校魅力化推進室長)

高等学校教育研究協議会第1回会議でも、令和20年度までを見据えた10年計画の妥当性や、社会情勢の変化への対応として、短い期間で計画の見直しを行う必要性が指摘されている。他県の事例も参考に、今後の高等学校教育研究協議会での議論を踏まえ、検討していく。

(委員)

中卒者の数が令和21年には1万人程度になるとグラフをみて理解した。

国立私立の枠はあまり数字が減っていないが、これはどういうことか。

(高校魅力化推進室長)

国・私立の中卒見込者数は実績ベースの予測となっている。

国・私立は県外からの生徒も受け入れているため、学級減を見込んでいない。

(委員)

留意点ウに「公立と私立が協力して」とあるが、どういった協力がなされているのか、また、留意点カに「40人を下回る学級編制は、慎重に検討する」とあるが、実際に下回っているところがあるのか、あるいは40人を下回る学級編成を検討し始めているところがあるのであれば、教えてほしい。

(高校魅力化推進室長)

公立高校と私立高校の役割分担ではなく、公立高校が7割、私立高校が3割の枠を目安に、生徒が自由に選択できる競争的な環境の中で、切磋琢磨し、岡山県全体の教育の質を高めていくという意味での協力である。これは、公立・私立高校が公教育の役割を果たすことを前提とした協力であり、それぞれの学校の特色を活かし、岡山県の生徒全体の資質向上に貢献していくことである。

また、40 人を下回る学級編制についてだが、岡山県では、国の基準に基づき 1 学級 40 人を基本として教員配置を行っている。新見高校の工業技術科と生物生産科の 2 科のみが 40 人未満の学級編制である。現在の計画では、40 人を下回る学級編制は極力避け、120 人を下限として定員を設定している。他県では、40 人未満の学級編制は少ないものの、学習内容維持のため 30 人や 35 人の学級を設けているところもある。岡山県においても、教員配置の関係から 40 人を基本とするのが望ましいと考えている。

(委員)

35 人で編制すると、教員の数を減らさないといけないということか。

(高校魅力化推進室長)

そのとおりである。

(教育長)

高校の教員配置は定員で決まるため、義務教育のように学級数が減っても教員数は減らない。35 人学級にすると 40 人学級の時よりも教員の配置数が少なくなるため、他県では、県独自で教員を増員しているケースもあるが、岡山県では行っていない。

以 下 、 非 公 開 の た め 省 略

閉会